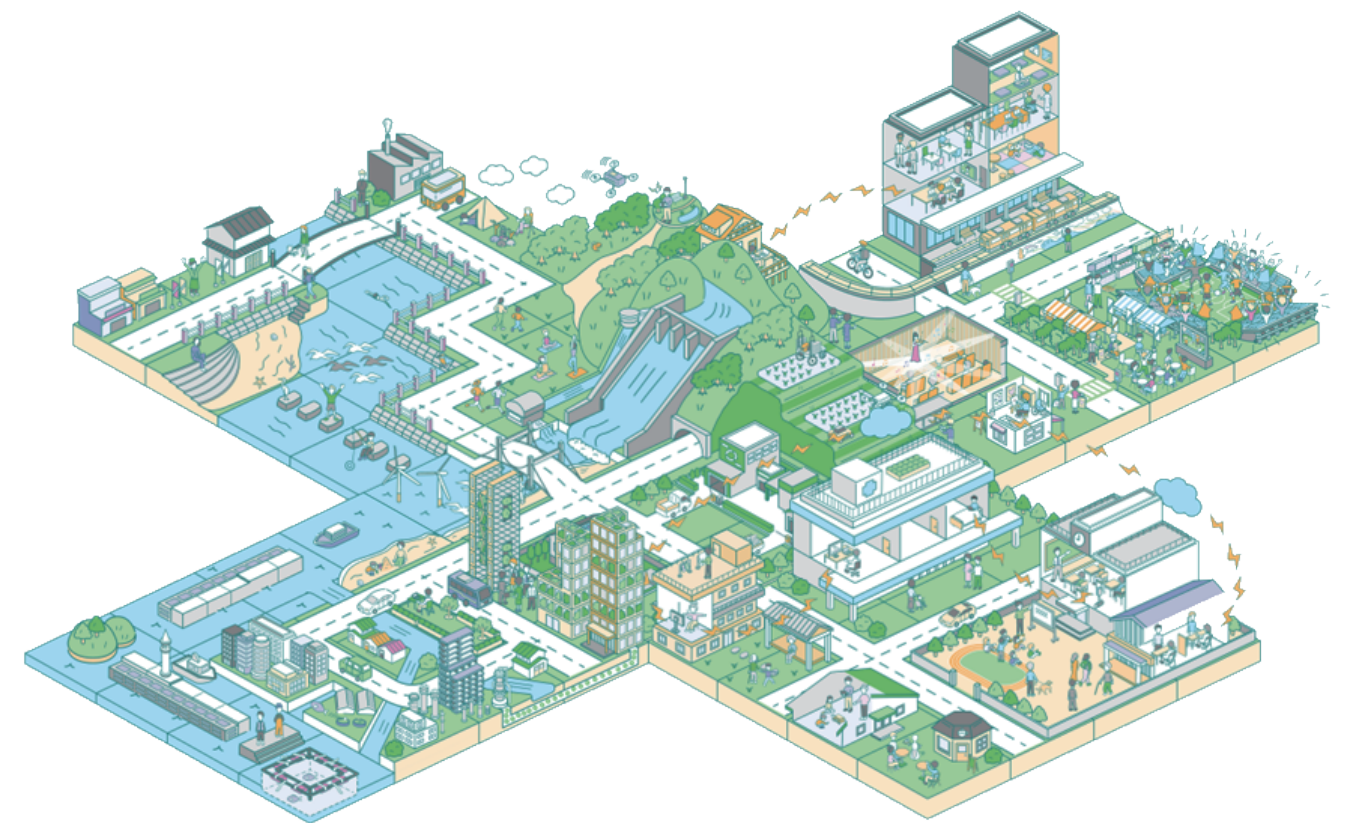


一般社団法人プラチナ構想ネットワーク



一般社団法人プラチナ構想ネットワーク

〒100-8141 東京都千代田区永田町 2-10-3 東急キャピトルタワー 9 階

TEL : 03-6858-3546 FAX : 03-5204-9563

e-mail : jimuinfor@platinum-network.jp

<https://www.platinum-network.jp>

プラチナ構想ネットワーク



プラチナ社会の実現を目指す
活動のご紹介

2024 年 4 月版

プラチナ構想ネットワークについて

プラチナ構想ネットワークは、「地球が持続し、豊かで、すべての人の自己実現を可能にする社会」をプラチナ社会と定義し、その実現を目指しています。地球と人類を視野に、日本に思いを致し、先見性・全体性・具体性において、優れた活動を行っていると自負しています。

人類の岐路2050年を焦点に、現在から2100年を視野に入れています。世界は再生可能エネルギーと資源循環による完全循環型社会となることが可能であり、その社会経済の下で、すべての人が、豊かで、自己実現が可能となる参加型社会を目指しています。その「**実現のために必要な知識のほとんどすべてはすでにどこかにある**」ことを認識し、分散局在した知のネットワークングによって実現を図ります。

地球・人間・社会のサステナビリティを求めて、世界～アジア～日本、都市～地方、技術・経済・社会を視野に入れています。世界視野のモデルですが、至る道筋は国情に依存するので、世界と協働しつつ日本のプラチナ化を進めます。

具体性

プラチナ化はビジネス創成と横展開で加速しなければなりません。そのために、「プラチナ森林産業イニシアティブ」「逆参勤交代」「サブスク×水平リサイクル」「多世代交流型めだかの学校」などの具体モデルを構築し、プロトタイピング(小規模実装)を行い、実ビジネスへの移行を触媒することによって、変革を主導します。

組織概要

設 立	2022年1月（前身の任意団体は2010年8月～2022年4月）
会 長	小宮山 宏 株式会社三菱総合研究所 理事長、東京大学第28代総長
組 織	一般社団法人（会員制）
会 員	法人会員（A 59団体、B 46団体、C 61団体） 自治体首長会員（220名） 社会実装推進会員（5名） 個人会員（68名） 計459団体・個人 ※2024年4月現在
年会費	法人会員（A 100万円以上、B 50万円、C 10万円以上） 社会実装推進会員・個人会員（1口5千円） 自治体首長会員は無料
社 員	法人会員（A・B） 社会実装推進会員 個人会員

活動の三本柱

理念の形成と普及	プラチナ社会は、エコロジカルで、資源の心配がなく、すべての人が参加でき、雇用が十分にあり、自由な社会です。その詳細像を常に研究し、提案を続けています。
人財育成	小学生から社会人まで、老若男女、多様な国の人々、異種の経験など多様性が刺激し合う環境で、社会課題の解決に挑戦し、参加するすべての人が成長する「Lifelong Active Learning」の場を構築しています。
社会実装	健康・自立、再生可能エネルギー、第1次産業、循環経済、観光、教育、インフラなどプラチナ社会の重要産業のビジネス化を目指しています。プラチナ構想ネットワーク自体は、ビジネス活動の主体ではありませんが、新ビジネスの概念・モデル構築、プロトタイピング（小規模実装）、活動主体との連携、実装のためのチーム組成など、新ビジネス創出に向け重要な役割を担っています。

理念の形成と普及

人財育成

社会実装

- ・プラチナ懇談会(会長を交えた意見交換、計124回開催)
 - ・プラチナ大賞(優れた取組を表彰して情報化、これまでに11回開催)
 - ・プラチナシンポジウム(時宜を得たテーマで随時開催、2023年6月「ビジョン2050 日本が輝く、森林循環経済」)
 - ・プラチナTV(YouTubeを活用した当会の活動紹介)
- 



プラチナTVはこちら

- ・プラチナ構想スクール(自治体職員の課題解決力養成塾、290名が卒業)
- ・プラチナ未来人財育成塾(中学生対象の未来人財育成、817名が卒業)
- ・プラチナ未来スクール(小学生対象の課題解決力養成塾、1300名が卒業)

- ・プラチナ会員連携支援プロジェクト(「自治体×企業」で社会実装、50件成立)
- ・イニシアティブ(大規模で複雑な課題に対し、影響のある主体が、競争前段階で協力して政策提言および先導的な取組に支援・参画、「森林産業」で活動中)
- ・特定地域でのプロジェクト組成(北海道、秋田、北いわて、長野、九州ほか)

活動手法

Network of Networksが活動手法の特徴です。世界に分散局在した知を動員するため、広く連携し、知の構造化を図っています。会員に加え、東京大学総括プロジェクト機構「プラチナ社会」総括寄付講座(大久保達也教授、菊池康紀教授)、文部科学省COI(Center Of Innovation Program、委員長小宮山)、STS京都会議(Science&Technology in Society Forum、理事長小宮山)、TM研究会(会長小宮山)、丸の内プラチナ大学(学長小宮山)など、多数の人やそのネットワークと、具体プロジェクトごとに連携しています。

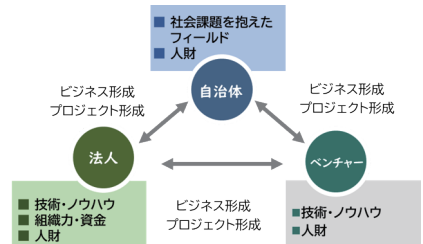
今後、力を入れていく社会実装支援では、プラチナ大賞などを通じて得られた全国各地の先導的モデルを「発掘・構築・体系化し」、そのモデルの「横展開を図り」、望まれる「法、社会制度の改革を促します」。

SDGs、Society5.0との関係

SDGs(Sustainable Development Goals)は、2015年に国連サミットで採択された、地球・人権を旨とする画期的な理念的目標です。プラチナ構想ネットワークも、持続可能な地球と社会の実現を掲げており、目指す方向は同じです。特に、「日本社会の課題解決が世界を主導する」という「課題解決先進国論」に基づき、少子化、地方の衰退、大都市の過密など、先進国の最重要課題の解決に取り組んでいます。

Society5.0は、「サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会」を目指しており、これは「すべての人の自己実現を可能にする社会」を掲げるプラチナ社会像と同一と考えられます。

会員のメリット



文明によって得られた自由を存分に活用し、21世紀に日本が世界に先駆けて直面している諸課題を解決し、プラチナ社会を実現していこうではありませんか。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

一般社団法人 プラチナ構想ネットワーク 会長

十之八

